

さくちゅう

## 桜山中だより

7月

主体的に強く優しく桜山中生さくちゅうせい -1学期を終えて-

久林 直美

4月頃の生徒のみなさんには、クラスや仲間とも不慣れでぎこちなさがありました。時間が経ち、着々と新しい桜山中さくちゅうが創られています。

今年度は、運動場で間隔をとって、学校集会を行っています。学校集会は、約600名が一堂を会します。『学校集会が予定されている』という意識をもった一人一人の登校が、時間通りの開催につながっていたり、集会を当たり前に行っている上級生の空気が、目標としている下級生に伝わっていたりしています。とても素晴らしい場となっています。

学校という場所は、互いを気にかけて、声をかけ、関わり合い、社会性を養う大切な場所です。それは、周囲の人との比較をすることではなく、互いの存在を受け入れたり、認め合ったりすることで、自分の考えが広がったり、深まったりすることです。

授業では、タブレットの活用が導入され、対話の時間を作っています。みなさんが意識している「桜山中対話ルール」は一体何がねらいでしょう。対話ができるとは、どういう関係性を築くことができるのでしょうか。

令和3年度は「主体的で、強く優しくなろう」という目標を伝え、スタートしています。

夏休み中、家庭や地域で、桜山中生さくちゅうせいとして身に付けたことを発揮する場面だと思えます。どんな場所や場面でも、一人一人が主体的に対応できる強さや、互いを認め合う優しさをもつことができれば、自分づくりが進んでいる証拠です。

有意義な夏休みを終えて、パワーアップしたみなさんの姿を楽しみにしています。